

AP COMMUNICATION

株式会社アピックス 社外報 AP 通信

創業100年に向けてのアプローチ、
「BPOサービスは、一日にしてならず」

代表取締役社長 河村 武敏

「安全・安心・信頼のおける企業へ」

常務取締役 川野 陽一

東京営業部

「98th スタートに向けて
～共感と実感～」

取締役 営業本部長 森田 一之

「多様性と受容性が豊かな組織へ」

執行役員 事業企画室 室長 重松 えみり

「着実な事業の発展へ、
着実な環境作りを」

管理本部長 松永 公一

社長 Column

「サンフランシスコ「UBER」の
破壊的イノベーション体感」

代表取締役社長 河村 武敏

68期経営方針会議
こだわり記念品▼



創業100年に向けてのアプローチ、 「BPOサービスは、一日にしてならず」



68期経営方針会議 集合写真

代表取締役社長 河村 武敏

つめなおし、創業来のビジネス変遷から、「BPOサービス」が弊社のDNAととらえ、「～BPOサービスは、一日にしてならず～」と銘打ち、中期事業目標を「ドキュメントサービス領域における、BPOのエクセレントカンパニーになる」と定義しました。

これからの3年、社員にもそのDNAと社員自身の役割を改めて考えることにより、事業継続性あるお客様から必要とされるサービスを提供していけるよう、全社を挙げて取り組んで参ります。引き続き変わらぬご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



68期経営方針会議 パーティー風景

いつもこの時期に全社員合同で集まり経営方針会議を開催、今年も中期経営計画が終了し、また新たな3年の中期経営計画の始まりの年、このタイミングは経営陣にとっても、気が引き締め、その意思を社員にしっかりと伝える場でもあります。また社員にとっても節目節目の緊張の場であり、また東京・大阪のメンバーが交流する楽しい場でもあります。

おかげさまで弊社も今年で創業98年を迎えようとしています。ここからの3年は、2020年に向けてまさに創業100年を目指す重要な

アプローチの3年になります。私が当社に入社したのが1990年、今から考えてみるとその時点は創業70年にあたり、そこから27年経過したという事になります。その中で、デジタル化技術やICT技術の急速な進化への対応、印刷技術革命の中での選択、金融危機やリーマンショック、震災等外部要因への柔軟な対応等を迫られ、事業ドメインを大きく変え、お客様やパートナーに支えられ、創業98年まで事業継続できたことは一番の喜びであります。

弊社の創業来のDNAを私見を交え一旦見

安全・安心・信頼のおける企業へ

常務取締役 川野 陽一



「ドキュメントサービス領域における、BPOのエクセレントカンパニーになる」ことを中期事業目標として掲げるなかで、自分自身で大切にしていることは、当社がお客様にとってなくてはならない会社になることである。

私自身がお客様の立場で考えると、なぜアピックスに仕事を頼むのか？と第三者に聞かれたら、他社と比較してやはり安全で安心して、そして信

頼がおけるから依頼するのではと判断します。

安全面では優良企業で且つセキュリティを担保している、安心面では品質を担保、信頼面では97年の実績で、またBPOのエクセレントカンパニーになる強い想いを持ったスタッフが、より一層皆様とともに発展する企業を目指して参りますので、今期も引き続きどうぞよろしくお願い致します。

98th スタートに向けて ～共感と実感～

取締役 営業本部長 森田 一之



当社98th期首、営業本部スタッフは今期の重点テーマとしてドキュメント領域をメインとしたBPOサービスを通じて、お客様の業績目標達成や業務効率の向上に貢献できるよう、われわれに何が提供できるか、何を提供すればいいかを常に考えながら、お客様より先に課題解決方法が提案できる営業を実践

していくことを再確認いたしました。

プロとしてお客様に共感いただける情報提供と提案をすすめ、実行すればその成果を実感いただけるような結果を出し続ける…そしてともに成長していく、その想いで営業マン各々が日々お客様のもとへうかがっておりますので、今期もどうぞ宜しくお願いいたします。

多様性と受容性が豊かな組織へ

執行役員 事業企画室 室長 重松 えみり



ダイバーシティ、働き方改革と企業そのもののあり方について活発な取り組みが行われています。

企業における最も重要な経営資産である「人材」において、ようやく日本でも真剣な議論が始まりこの動きはますます加速していく事でしょう。

そんな中、当社でも新たな取り組みとして経済産業省とJETROによる「国際化インターンシップ」制度へ参加し、今期より海外人材のインターンシップを行なっています。インターン受け入れすら初めてな上に、海外人材??実施を決めた当初、社内にはそんな戸惑いが多かった事は事実で

す。(また、私がムチャ言い出したと…)いざ活動を開始すると、伝え方を工夫する・積極的にコミュニケーションをとる・文化を知ろうとする等、社員が一生懸命に関わりを持ち互いの理解を深めようとしているのを感じています。

私自身も、海外人材が「働きやすい」職場は、日本のスタッフたちにとっても「働きやすい」職場なのだという当たり前の事に改めて気付かされました。これまでの「当たり前」が通用しない時代を生き抜くために、多様性に富んだ人材・働き方を「受容」するしなやかで強い組織を目指してまいります。

着実な事業の発展へ、着実な環境作りを

管理本部長 松永 公一



おかげさまで当社は68期、創業から98年目のスタートを迎えることができました。

長い風雪に耐え、皆様に支えられてここまで来ましたが、めまぐるしく変化する時代の流れの中で、これから1年1年を着実に、安定して発展していくためには、裏方である管理業務が十分に機能することも大切です。

「ドキュメントサービス領域における、BPOのエクセレントカンパニーになる」という当社の中期目標に向け、管理本部一同が時代の変化に対応し、確実な管理業務を行うことで、お客様の役に立ち、信頼されるサービスを安定して提供できるBPOサービス事業の基盤を支えてゆきますので、今期も、これまで以上のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



社長

Column

【サンフランシスコ「UBER」の破壊的イノベーション体感】

代表取締役社長 河村武敏

先日の10月下旬に、JIIMAのシリコンバレー視察研修に参加する機会を得て、社員3名とともにサンフランシスコ、シリコンバレーで4日間滞在した。訪問先は、かの名高いパロアルト研究所、FXPAL、SAP社など5か所。印象深かったのは、どこも「破壊的イノベーション」

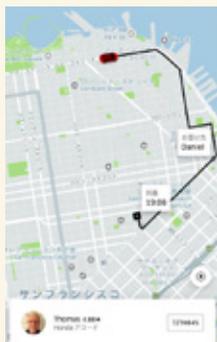


@twitter社 本社前
JIIMA理事長と

を実践していたことだ。その内容については、次号にでも社員レポートを掲載する予定。その短い研修期間に「破壊的イノベーション」の1つである「UBER」を体験した。「UBER」とはシェアライド型登録民間タクシー配車システムといったところ。「UBER」は日本ではタクシー業界の規制により、まだ普及していないが、アメリカ国内では、



UBERハンズオン体験



UBERスマホアプリ画面▲
Thomasさんの車
車種はアコード、車番は7TZH845
評価★は4.88

イエローキャブが街中でほとんど見かけなくなるほどの普及。仕組みは、まずクレジットカードを事前登録、スマホの「UBER」のアプリをDLし起動、するとグーグルマップ上に、近くにいる登録カーが画面上に現れ、乗車人数・車種、行き先などを入力、すると登録カーがその情報にアクセスし、運転者の顔写真、ユーザー評価とともにあと何分で到着という情報が画面に表示され、配車を待つ、その際のユーザーインターフェイスもリア



UBER車内よりサンフランシスコ市内

ルタイムで追跡され、スマホアプリ上で車がGPSでユーザーのところへ走ってくる様子が表示されるとい仕組み。ゲーム感覚ではあるが、ほんの数分で到着し、そこで車と会い乗車し、目的地まで行く。そして金銭の授受、チップも必要なく、最低限の会話のみで目的地まで行けるというシステム。GPS、ス

破壊的イノベーションを語る
弊社社員 岡本匡史氏▶



ホアプリ、決済システムが融合したまさに「破壊的イノベーション」を実感した。多国籍民族の住む土壌、先進的決済システム、GPS機能、通信の高速化、規制緩和など日本にはないICT技

術を駆使した、私にとっては目からうろこの体験をしたわけだ。海外赴任の方や、現地の方には普通の体験のようだが、今回の視察研修メンバーでほとんど体験者はなく、弊社社員もとりあえず使ってみたと聞き、忘れえぬ体験をしたようだ。

既に競合のLyftというサービスも出現しており、UBERとLyftの両方と契約するドライバーもいて、大変忙しいという見方もできそう。次は民泊サイト「Airbnb」かな?



UBER/lyft
2つのサービス登録車

チームMVP

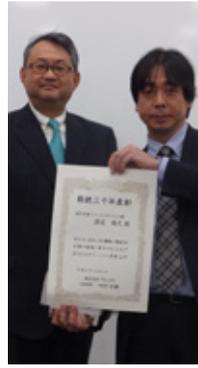
東京営業部 マネージャー 山本 仁

67期キックオフにて東京営業部がMVPをいただきました。67期は6名でスタートしましたが日々のお客様への提案活動に併せ2つの大きな展示会展もあり大変な時期もありましたが、その分部内の団結力が上がったように思います。68期はこれまで以上にその団結力を以てお客様、社内各部門を巻き込み、各人員がそれぞれ新たな取り組みを行い、全社売上げ目標達成を成し遂げたいと思います。



勤続30年

リソースマネジメント部 渡邊 雅之



今年度におきまして勤続30年を迎えることになりました。そして今回永年勤続表彰を受けることが出来ました。これもひとえに会社の方(共に働くスタッフ)が支えてくれたからだと考えています。私自身はあまり意識していませんでしたが、30年と言われてふと会社人生を振り返ってみました。すると結構いろいろなことがあることがわかりました。うまく経験を活かせることもあれば、せつかくの失敗をその後につなげられなかったこともありました。これからも更に経験を積んで、頑張りたいと思います。

個人VP

リソースマネジメント部 統括マネージャー 岡本 匡史



先期は新たな取り組みも多く、非常に有意義でありました。これも日頃からの皆様からのご助力と業務に取り組んでくれているスタッフの頑張りがあったからこそです。今回、個人としてVPを頂きましたが、これからもスタッフと共に真摯に取り組む、お役に立てるよう努力する事をお約束して決意表明とさせていただきます。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

東京営業部 リーダー 吉田 慎二郎



今回、個人VP賞を頂きましたのは、東京営業部を始めとする全部門、全スタッフの協力があったからこそと感じています。今期の東京営業部のスローガンは【共に強く、共に熱く】です。創業100周年の2020年まであと3年となりました。お客様のニーズの変化に柔軟に対応し、お客様に必要な存在でありますように日々精進してまいります。

東京制作部 リーダー 佐野 光治



今回、このような賞をいただいたのは、ひとえに東京制作部の皆さんの頑張りによるものだと改めて感じます。全員で仕事を共有できる体制や、成長できる環境を整えられたことも、VP賞の受賞に繋がったのだと思います。今期は、東京支店の移転が控えておりますので、利益貢献できる様、より一層頑張っていきたいと思っております。

チームVP

リソースマネジメント部 森田 剛史



2017年10月21日の68期経営方針説明会で、67期のチームVP賞として私の所属するサイトが選ばれ、大変光栄に思います。

お客様からのご要望にお応えするなかで、サイトスタッフの規模も1年半前から約3倍になりました。業務も印刷主体からサービス主体に変わりつつありますが、スタッフ全員がホスピタリティを心がけてまいります。

大阪制作部 マネージャー 増田 良輔



この度はチームVPをいただき本当に嬉しく思っております。早いものでプロジェクトが発足してからもうすぐ2年が経ちます。最初は思うように結果が現れない時期もありました。座学中心で頭から煙が出るような話ばかり。正直「本当に我々にできるのか…?」と半信半疑でしたがアドバイザーの熱い指導とプロジェクトメンバーの頑張りとお客さんの協力のおかげでここまですることができました。心から感謝しています。常に高い意欲でいるのは無理です。やる気がない日もあるのが自然です。「改善は特別なことではなく普段着姿で生産活動の中で一緒にやっていくもの」やる気に頼らず当たり前のように淡々と改善が進むようになればしめたもん。ムダを少なくして、みんなで楽ができるようにしていきます。



編集後記

今号は当社の第68期キックオフの内容をメインにお届けいたしました。今年も大阪にて東販合同での開催となり、社員一同、しっかりと今期の目標を確認し、自分自身がやるべきことを定めることができたのではないかと感じます。

100年企業まであと3年を迎えました。一つの大きな節目に向かって突き進むなか、このAP通信でもたくさんの情報を発信していきますので、今後もお手元に届くのをどうぞ楽しみに(気長に…)お待ちください!

事業企画室 新川 由樹



今号の1枚キックオフ



株式会社アピックス

本社 〒541-0059 大阪市中央区博労町 1-2-2

東京支店 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 新富町営和ビル

URL <http://www.apix.co.jp> E-mail info@apix.co.jp

TEL:06-6271-7291 FAX:06-6271-7296

TEL:03-5879-7291 FAX:03-5879-7296